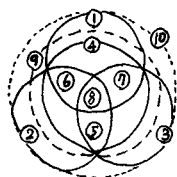


〈研究の目的〉今日子どもをとりまく物的、人的環境が著しく変化しているといわれる。就園前幼児(2~3才)の生活との関連で、集団活動の保育内容をどのように構成していくことにより、幼児としてのより豊かな発達が培われていくかを明らかにする。

〈研究の方法〉東京家政学院大学児童学研究室で行っている幼児(2~3才)グループ活動の実践研究の結果(1989.4~1990.1)を分析し考察する。

〈研究の結果〉集団活動において個々の自発的な参加が誘われ、個々の発達と集団のダイナミックな発展が統合的になされ、幼児の生活に豊かに根づいていくととらえられる保育内容は次のような構造(特質)をもっていると考察された。



①遊び(自己充実, 楽しさ) ②生活(生活体験, 課題) ③心理劇(人間関係の体験) ④集団活動(①②③が関連的に展開する活動) ⑤生活と心理劇の交差(役割開発) ⑥生活と遊びの交差(探索, 工夫-技術, 多様性の開発) ⑦遊びと心理劇の交差(自発性, 創造性, 応答性の開発) ⑧個と集団の統合的発展(人格形成, 全体的発達) ⑨集団活動が展開する空間(室内, 内外の交差-移動空間, 戸外空間) ⑩環境(物的, 人的, 自己的)

活動例: 焼き芋活動の展開=好き百電車(みたて, 小グループごと)で戸外へ移動(④⑨), 自然探索(⑤⑥⑨), 焼き芋(焚き火, 落葉を入れる, 焼き芋を取り出す, 運ぶ)(②③④⑤⑥⑨), 焼き芋ジャンケン(①②③④), 皆で食べる(②④⑨), 家庭での生活(①②③⑩), 心理劇(④⑤⑦⑨), ジョコ遊び(④⑤⑥⑦⑧⑨)。研究協力者(鈴木, 大澤, 小西)